

## 肝臓分野

### 1. 脂肪性肝疾患を対象とした専門外来の設置

脂肪肝は近年肝癌や肝硬変の主な原因となっている。特に、肝線維化を有する肝臓が硬い脂肪肝では予後が悪いため肝臓の硬さを見極めるのが重要である。山梨大学は**非侵襲的検査であるMRIやFibroScan®**を用いた脂肪肝外来を全国に先駆け**2018年に設置した**。脂肪肝外来では**低糖質食の栄養指導**を行い、必要時保険診療の範囲で治療を行うことで**多くの患者の脂肪肝を改善した**。**2025年からは肥満症治療薬の導入も積極的に行っている**。

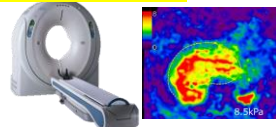
MRI (MRE+PDFF)

FibroScan®

脂肪肝外来受診者総数 598例

2025年 新患 62例

受診患者数のべ 1200例



### 2. 肝硬変～切除不能肝細胞癌まで免疫複合療法を含めた集学的なトップレベルの肝疾患診療

肝硬変診療では土屋淳紀教授は現在【**肝硬変診療ガイドライン**】の**作成委員長**をしており、**全国トップレベルの診療**を行っている。免疫複合療法の登場により予後が大きく改善している肝細胞癌は山梨大学は**県内トップの免疫複合療法使用実績**を有する。**高度な局所療法**（外科治療、TACE、ラジオ波焼灼療法、放射線治療）が**県内唯一全て可能**で、免疫複合療法などとの組み合わせによる**集学的治療で良好な生存**を得ている。

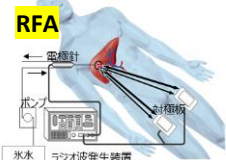
#### 免疫複合療法

IO + 抗VEGF

IO:免疫治療  
導入数103例 (2025年 20例)



TACE



導入数42例 (2025年 19例)

## 胆膵分野

### 1. 先進的胆膵内視鏡の充実により膵癌早期診断症例や外科手術症例の増加

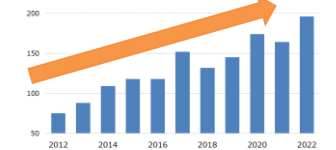
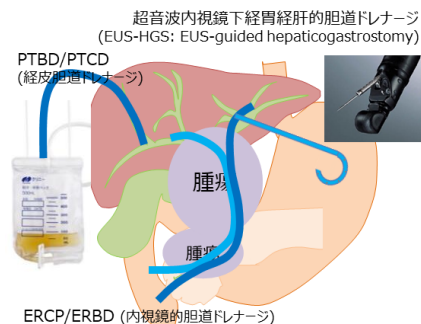
胆膵内視鏡件数増加 早期診断・外科手術症例増加



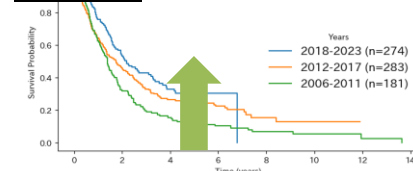
### 2. 胆道ドレナージ技術の進歩により抗癌剤治療からの逸脱回避

ドレナージ技術の進歩 胆管ステント留置症例は10年間で3倍に増加

閉塞性黄疸による抗癌剤治療からの脱落を回避



### 3. 上記先進技術の集約により膵癌の予後は経時的に改善

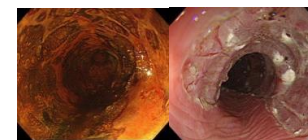


山梨大学病院：  
膵癌734症例/18年  
5年生存率：12%から31%へ

## 消化管分野

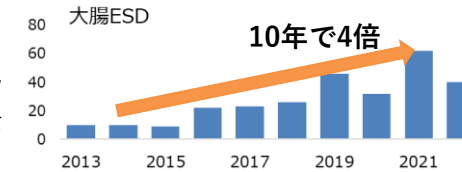
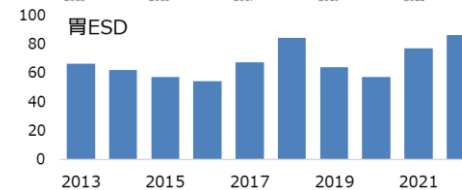
### 1. 消化管癌に対する低侵襲な内視鏡治療

ESD (endoscopic submucosal dissection, 内視鏡的粘膜下層剥離術)



低侵襲な内視鏡で食道・胃・大腸癌を治療するESD件数は、技術の進歩に伴い大幅に増加しており、**県内トップクラスの治療実績**を有する。

治療難易度の高い十二指腸腫瘍に対しても、安全に治療できる **underwater EMR**や、**消化器外科との合同手術 (LECS)**を積極的に実施している。



### 2. 炎症性腸疾患 (IBD) に対する治療

近年増加している難病である潰瘍性大腸炎 (UC) やクローン病に対して、**炎症性腸疾患学会の指導施設**であり、**県内初の炎症性腸疾患専門医**も在籍している。

